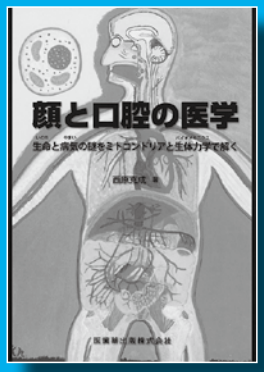
Book Review

顔と口腔の医学

生命（いのち）と病気（やまい）の謎をミトコンドリアと生体力学（バイオメカニクス）で解く

西原克成　著



B5 判，260 頁
定価 9,450 円
（本体 9,000 円＋税 5%）
医歯薬出版刊

Reviewer
川原春幸
（臨床器材研究所）

筆者は今年，91 歳になった．これまで自分の著書は多数出版してきたが，他の方の著書を評価するのは初めての経験である．しかも，書評する対象書籍が難解な論説家である西原克成博士の著書である．正直いって腰が引けた．だが，西原博士ご本人からの依頼もあり，勇を鼓してお受けすることにした．

西原博士の提唱する重力進化学からみた難治疾患の発病とその治療法に関する論説には，筆者には到底及ばないほどの，斬新な発想や概念に満ちあふれている．生命と病気の謎を細胞の内燃機関であるミトコンドリアとそれを取り囲む生体力学的環境変化から解説した論説はまさに本書の圧巻である．近年，提唱され始めた生死学，アンチエイジング，再生医学，統合医学，そして東洋医学や漢方にも深く関連した興味ある力作で，まさに一読に値する著書である．

本書の上手な読み方について私見を述べておこう．一般に科学的書籍は序文に始まり総論から各論へと読み進めるのが最も合理的な読み方である．しかし，本書については第 II 編（臨床，106 頁）から，第 I 編（理論的背景，1 頁）へと読み進めたほうが西原博士の理論の全体像がより容易に理解できると思う．これは西原博士の理論が，花粉症や喘息，アトピー性皮膚炎，糖尿病，膠原病などの難治性免疫疾患の完治についての豊富な実践的臨床経験を根拠として確立されたからであろう．その証拠に西原博士は 10 編を超える一般大衆向けの著書を執筆している．それらを専門書として集大成したのが本書『顔と口腔の医学』である．

医療で大切なことは臨床成果である．西原博士は彼の臨床成果の biological evidence を求めて理論的に帰納する場所を考えたのであろう．そしてその帰納場所が，若い頃に情熱を捧げた東京医科歯科大学生化学教室（山川民夫教授）における学位論文の研究テーマ“ミトコンドリアの突然変異がいかにして発生するのかというモデル研究”のなかに存在していることに思い当たった．

本書は，今日の難治免疫病が，無害の常在性の腸内細菌のおびただしい数の細胞内感染症によるミトコンドリアの荒廃によって起こると断定し，細胞内感染によって細胞内タンパク合成系が阻害されることが原因で，ミトコンドリアが変異すると論説している．そしてこの変異は呼吸，咬合，咀嚼，姿勢などのバイオメカニカルな環境変化がトリガーとなって発現し，これが難治病の原因であると論断している．

最近，西原博士はこれに関連した十数編の原著論文を Biogenic Amines, VSP に発表され，難解な彼の論説も少しずつ海外で認証されてきたようだ．斬新な必読の書としてお薦めする．